

事業名称	文化の種まきプロジェクト		
実行委員会	文化の種まきプロジェクト実行委員会		
中核館	山梨県立美術館		
	住所	〒400-0065 山梨県甲府市貢川 1-4-27	
	TEL	055-228-3322	FAX 055-228-3324
	ホームページ	http://www.art-museum.pref.yamanashi.jp/	
構成団体	山梨県立文学館、山梨県甲府市、山梨県甲斐市		
事業開始時点の課題分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山梨県立美術館が山梨の芸術文化の核となり、芸術文化のみならず、地域振興、観光、経済、福祉などの分野と結びついて、様々な世代や立場、考え方の人々が集い、県内外に文化的な連鎖反応を起こす役割を果たす必要がある。</li> <li>・昭和 53 年の開館時にミレーの《種をまく人》を収集し、山梨県立美術館は全国の賞賛を集め、県民にとって誇るべき存在、文化芸術のよりどころ、さらには観光資源としての一翼を担ってきた。しかしながら、近年、その求心力が落ち、特に若い世代への発信力が不足している。</li> <li>・一方で、芸術文化のもつ想像力や発信力が、未来や街作りを考える原動力になることが注視されている。山梨県内でも公私様々な文化芸術振興活動が行われているが、個々に模索している状況で、それらの連携を結ぶための核が必要となっている。</li> <li>・山梨県内には非常に多くの美術館・博物館が存在しているが、小規模な館が多く、学芸員や職員は新たな美術館活動に関する情報収集や研修を行うことが難しい状況にある。各館の人材育成や活動向上につながる研修を、山梨県内で受けることのできる機会を設ける必要がある。</li> </ul>		
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山梨県立美術館の求心力を回復し、山梨の芸術文化団体、山梨ゆかりのアーティスト、県内美術館・博物館、周辺の自治体、地域振興活動団体や地元企業、障がい者支援団体などと共働しなから、芸術文化をめぐる一体感を醸成し、芸術文化の創造力を再認識し、山梨の文化を全国や世界に発信することをめざす。</li> <li>・地域的な連携を推進するため、山梨県立美術館、隣接する山梨県立文学館、周辺自治体である甲府市、甲斐市が共働し、実行委委員会を設立する。</li> <li>・地元のアーティスト、地元企業、地場産業、学校、福祉、地域振興活動団体など、様々な人材が共働しやすいイベントを開催し、芸術文化の力を発信する。</li> <li>・山梨県立美術館の活動を振り返り、役割や影響力を確認するための事業を開催し、これからの美術館と芸術文化振興のあり方を検証し、情報発信する。</li> <li>・先進的な美術鑑賞プログラムを開催し、美術鑑賞の新たな可能性を探る。</li> <li>・県内の美術館・博物館職員のため研修を開催し、実践的なワークショップや保存環境整備を知る機会を提供する。</li> </ul>		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【シンポジウム、館長トーク、コメント募集】 山梨県立美術館の活動、収集や展示の意義を確認し、使命や魅力を情報発信するための事業として、コレクションの主体となるミレーとバルビゾン派について学術的な発表と討論を行うシンポジウム（実施 1）、これからの美術館活動や使命を検証するため、歴代館長や一般の利用者の体験談、意見を聞き、提言をうけるイベント（実施 2,3）を開催する。</li> <li>・【先進的美術鑑賞ワークショップ】 視覚障害者や認知症患者など、障がいのある方も健常者も、ともに新たな美術鑑賞体験ができるような先進的美術鑑賞ワークショップ（実施 4,5）を行う。障がい者とその支援者に限らず、一般の美術館利用者、さらに県内の美術館・博物館の学芸員やスタッフに、新しい美術鑑賞の可能性を紹介する。</li> <li>・【県内美術館学芸員研修】 県内の美術館学芸員・スタッフを対象に、実践的で最新の地震対策を研修できる講座（実施 6）を開催する。</li> </ul>		

<p>実施項目</p> <p>・</p> <p>実施体系</p>	<p>(1) 地域文化の発信の核となる美術館・歴史博物館</p> <p>■ア 美術館・歴史博物館の情報発信、相互連携</p> <p>■イ ユニークベニューの促進</p> <p>□ウ 地域のグローバル化拠点としての美術館・歴史博物館</p> <p>■エ 地域に存する文化財を活用した地域共働の創造活動や地域の魅力の発掘・発信</p> <p>(2) あらゆる者が参加できるプログラム及び学校教育や地域の文化施設等との連携によるアウトリーチ活動</p> <p>□ア 小・中・高等学校と連携した地域文化の担い手の育成</p> <p>□イ 大学等と連携した国内外で活躍する文化人材育成プログラムの開発</p> <p>■ウ 社会人ほか多様な対象者のための学習講座の実施</p> <p>■エ 障がい者の芸術活動支援・鑑賞活動支援等の事業</p> <p>(3) 新たな機能を創造する美術館・歴史博物館</p> <p>■ア 観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等他分野との連携・融合による活動</p> <p>□イ 文化財の新たな保存管理・活用の手法の開発</p>
<p>施後の 成果・効果等</p>	<p>・「種まきシンポジウムの開催」(実施1)において、ミレーやバルビゾン派の作品に関連する学術的な発表と討論は、当館を象徴するコレクションの文化財的価値を再認識し、かつ地域振興に繋がる重要な資源であることの発信に寄与した。「歴代館長トークショーの開催」(実施2)は、長年にわたり当館を牽引してきた歴代館長3名による当館の過去の検証と、役割の再確認、さらには今後の課題の提起など、当館の魅力の情報発信、さらには地域の文化振興拠点として積み上げてきた実績によるユニークベニューの促進に繋がる。「体験コメントメッセージ募集」(実施3)への寄稿は、県民や地域における当館の役割や影響力を確認し、今後のあり方を検証するための貴重な教材として今後も活用が望まれる。</p> <p>・「視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ」(実施4)、「認知症患者のケアとしての美術鑑賞ワークショップ」(実施5)では、障がい者の視点で健常者とともに美術鑑賞することで新たな鑑賞形態や作品理解が生まれた。これらは障がい者への鑑賞活動支援の糧となり、また多様な立場にある鑑賞者対応への指針ともなった。また、障がい者支援団体との連携もおこなわれ今後の永続的な連携を構築する機運を生んだ。「美術館・博物館施設等の地震対策研修講座」(実施6)は、県内の様々な規模の美術館等で働く学芸員に対して、日常業務では専門的な知識を習得し難いものの非常に重要な地震対策について学習する機会を設け、各館へ持ち帰って今後の対策に有効な材料を提供した。</p>

【事業実績】別紙のとおり